

2009年1月17日(土)～1月18日(日)

## 西黒尾根雪訓

### ■メンバー

CL,K玉T彦(記)、S木K生、S山W、S井N那、M浦H弘夫、K島K世、I嵐M絵、M中K哉、A元A子、F神H晃

### ■タイム

【17日】6:30 ベースプラザ：アメダスデータ、天気図にて積雪状況を確認～9:30 西黒尾根870m 付近：ピットチェック～12:00 西黒尾根1150m 付近：ビーコン練習～14:30 西黒尾根1150m 付近：雪洞ほり～その他：歩行・ラッセル訓練、雪洞泊

【18日】7:00 歩行・ラッセル訓練～8:00 ピットチェック～9:00 スタンディングアックスビレー～11:30 軟雪アンカー・雪山登攀システム・土囊懸垂下降～15:00 下山

当初リーダーを務める予定だったI藤さんが正月山行にて凍傷を負い、急遽代理でリーダーを

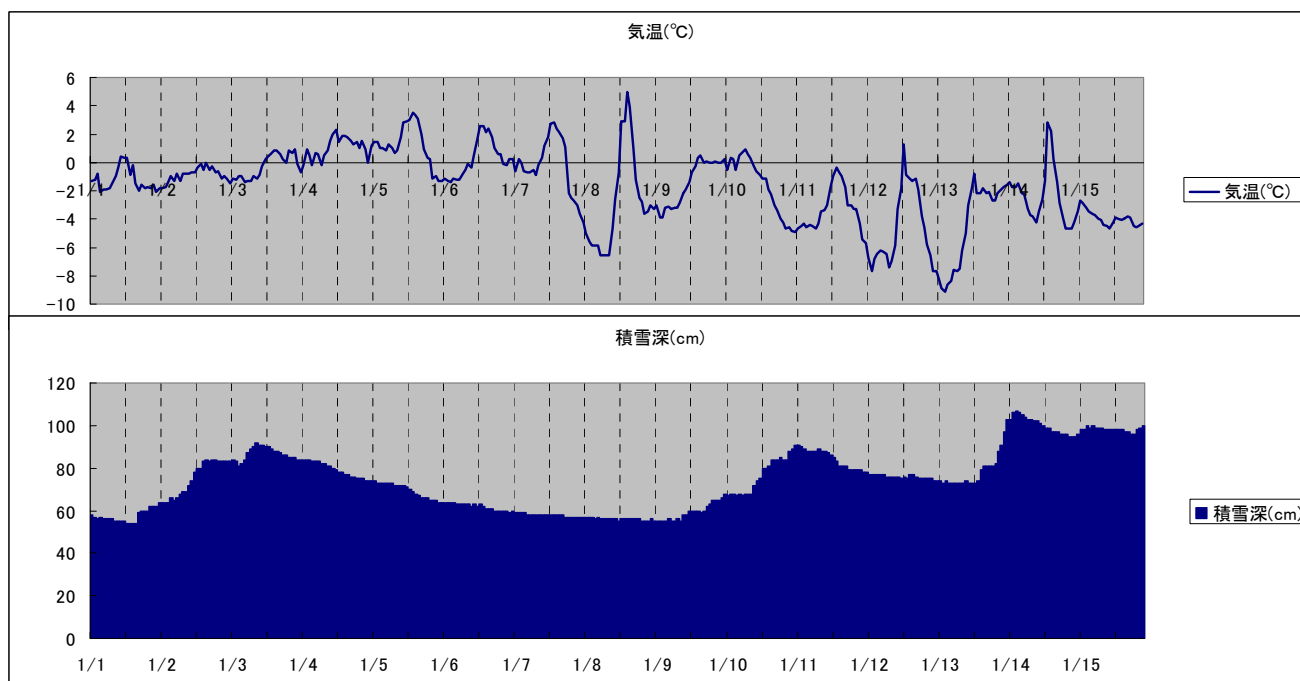
努めることになった。訓練内容や段取りはI藤さんが進めていたので、それを引き継ぐ形でおおむねスムーズに進行できた。

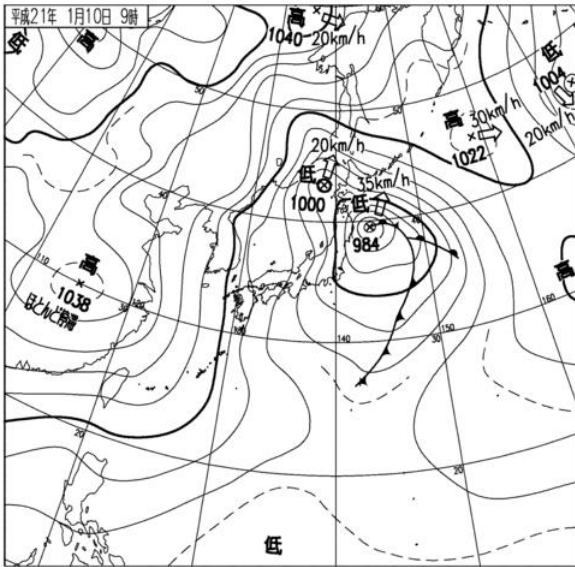
17日朝、出発を前に谷川岳ロープウェー・ベースプラザにてまずは天気の勉強。あらかじめ過去2週間分の気象データから積雪の状況を予想。用いた気象データは、みなかみのアメダスデータと天気図。データから読み取れる特徴は下記のとおり。

- 1月2日-3日の降雪
- 1月8日の放射冷却
- 日中の晴天およびその直後の降雪
- 1月13日の寒気流入と14日の降雪

※気象データは、日本気象協会 (<http://tenki.jp/>)、および、HBC ウェザーセンター (<http://www.hbc.co.jp/weather2/>) を参照。

ピットチェックを行ってみると、これらの層は顕著に見て取れた。1月8日と13日の夜間の冷え込みによる表面霜が積雪内に存在し、典型的な弱層となっていた。14日以降に積もった20cm程度のスラフが簡単に崩れる以外は、その下の弱層は山岳活動に影響なく、おおむね安全との判断を





下す。

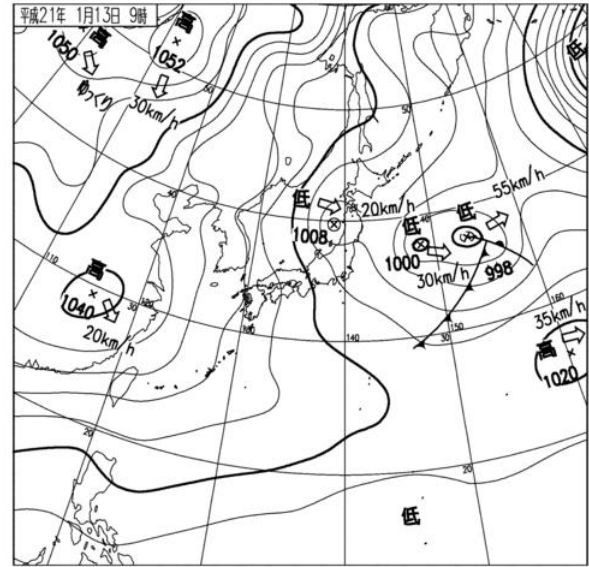
F 神さんのラッセルは圧倒的なスピードで、後続は追いつくことすらままならない。

ビーコンの練習は、まずは隠さないで行う。自分のビーコンで、確実にポイントにたどりつけることを練習する。その後、4つの班に分けてビーコン捜索の練習。

全員雪洞泊ということで、6人用、4人用の2つの雪洞をほる。Wさん、M中さん、F神さん、S井さんの4人が何かに取り付かれたようにほり進み、あっという間に雪洞が出来上がる。雪はたっぷりあって、広さも高さも十分なものを作っても木や笹が出てこない。どちらの雪洞も広々。ちょっと大きすぎたか。新人のA元さんはぶなの会初山行にして雪洞泊。濃い訓練になったに違いない。

18日、訓練敵地を求めて尾根を上がるも、結局雪洞近くまで戻って訓練を始める。まずはピットチェックで積雪の安定度を測る。パーティーごとにひとつ、約2mのピットをほってチェック。コンプレッションテストでは、25cmの深さのソフトスラブが25回目(肘)で崩れた。崩れたのは14日以降の積雪。その下の弱層(1月8日の層)は、体重をかけて乗り込んだときによりやく崩れる。

スタンディングアックスピレーは、シートやスコップで滑り降りる人を止める。K島さんWさんの滑るのを止められず、一緒に滑落していったよ



うだった。

軟雪アンカーの訓練。この日の雪では、スノーバーはほとんど効かない。デッドマンを使った軟雪アンカーは良く効いた。ピットチェックで確かめたように上部25cmのソフトスラブではデッドマンといえども効かない。効いていないデッドマンにテンションをかけたM中さんは2mの滑落(落下?)。

スコップをデッドマンのようにアンカーにする実験も行った。ブレードの穴にスリングを通してスコップを雪に差し込む。これはスコップの形状で効くものと効かないものがある。ブラックダイヤモンドのディプロイのように、ブレードの柄に近い部分に穴のあるタイプは、よく効いた。一方で、G3のアビテックのようにブレードの先と柄の中間に穴のあるタイプは効かない。

クライミングシステムの練習中にわかったことは、フリクションノットのひとつであるオートブロックの効き方がいまいちなこと。メインロープに対して斜め方向に素早く移動する力が加わったときはしっかり効くのだが、メインロープと平行に移動させると、かなりのスピードで滑落しても止まらない。今回用いたのは、メインロープ:8.3mm、ロープスリング:5mm。組み合わせの相性が悪いのか。本番では道具の相性、使い方を事前に確かめなければならない。



---

---

### コメント

---

---

一昨年の雪崩訓練でのピットチェックは、とりあえずよく聞いていたが頭が回転せずあまり理解できなかつた。あれから山スキーを始めたが、実際現場でピットチェックはしたことがない。

今年の雪崩訓練のK玉君の話は非常に分かりやすく、一昨年やっていたことがどういうことなのかようやく理解できた。一昨年例会でくばられたレジメを読み返すと、ピットチェックもさることながら、ビーコンによる捜索、軟雪アンカーのことなどよく理解できる。あとはやはり場数を踏むこと、練習、検証が大切だと思う。次回の山スキーからピットチェックをやってみよう。

ところでM浦さん、夜ご飯、朝ご飯めっちゃこおいしかったです。最高ですシェフ。私はいつも山のメニューは思い浮かばず苦労します。メニュー案いただきます。

F神さん、トレイルランニングの話、こんな世界もあるのだととても新鮮でした。しかし1日で山道60<sup>キロ</sup>も走るとは目が点です。2日間で37<sup>キロ</sup>歩きましたが、スタイルは違えど、信じられない！！

#### S井N那

今年1月に入会したA元です。初のおなでの山行と初雪山がこの雪崩訓練となりました。初めて尽くしの雪山2日間の報告をしたいと思います。

前日に谷川岳ロープウェイ駅舎に入り床暖房の効いた駅舎で仮眠。熟睡出来ました。翌日、K

玉さんが用意してくれた天気予報図の資料で最近の谷川の雪の状態を予習。こんな事も初めてで、説明を聞いても解った様な解らない様な……。もっと山の経験を積んでから天気図や天候の勉強もしてみないといけないなと思います。

装備を確認して雪の舞う中、3パーティーに分かれ出発。途中から雪は膝下位にまで積もっていて初めての雪山歩きの私は一苦労どころか、だんだん不安になっていきました。鼻水は止まらないし、息は上がるし、足は雪に沈み思うように歩けず、遅れをとってしまってだんだん焦るし……と全く余裕なしの登りです。もうなりふり構わずとにかく前に進む事だけを考えて歩く。テント場に着いたのが非常に嬉しかったです。

そこでビーコン操作の練習、実際ビーコンを雪に埋めて探しに行く実践的な講習。ビーコンを触るのも初めて。果たして実際の雪崩に遭遇した時に自分がどこまで出来るかは不安ですが、大変良い勉強になったと思います。その間にも雪洞掘りは着々と進められており、私もほんの少し手伝いましたが、これまた雪の重さにすぐバテてしまい思うように雪を四角くカット出来ません。K玉さんのスノーソー捌きが見事でした！6人用と4人用の雪洞が見事に出来上がり初雪洞生活の始まりです。まず雪から水を作る、何度も言いますが全てが初めての体験です！食事の一切を担当してくれたM浦さんには大変感謝です、雪山であれ程豪華な食事が頂けるとは思っていませんでしたので感動しました。さすがM浦シェフです！

食事で体も温まりそろそろ就寝となり、それぞれシュラフに入り寝る体勢に。私は厳冬期用のシュラフを持っていなかったのですが、雪に慣れていないせいか深々と寒くなりなかなか寝付けず結局、いつの間にか寝ていた様ですが熟睡には至りませんでした。何事も経験ですね。

翌日の天気は晴れ。朝日をうけながらの登りは爽快でした。訓練適地を決め、各パーティーでピットチェックやスタンディングアックスビレイの練習。雪の状態も150cmも掘ると良く分かこ



れも大変勉強になりました。ロープの扱いも結び方も解らないので皆さんに教えてもらうがままやっていたのですが、この辺りはたくさん練習して体に覚えさせるしかないですね。滑落停止の基本動作、懸垂下降の方法を教わりました。

土嚢を雪に埋めての懸垂下降の方法を最後に雪崩講習は一通り終了、下山となりました。

ふかふかの雪の中、途中転んでも痛くも痒くもないので快適に下って行けました。皆さん、怪我も無く、もちろん自分も無事下山出来た事が何よりです。

ロープウェイ駅舎で解散後、各自の車で温泉へ。

私達が行った温泉はかなり鄙びたちいさな温泉場でしたが、とても良いお湯で体の芯から暖まった気がします。

慣れない雪山での登りは変な所に力を入れていたのでしょう、翌日の筋肉痛はひどいものでした……。

という事で、初雪山山行は非常に内容の濃い、充実したものになりました。色々教えて頂いた皆様、ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いします。

#### A元A子

ひとりの山歩きが多かった私にとって、会山行の講習会はすごく楽しみだ。今回は雪崩講習。ピットチェックによって、すこしの地形の違いでも雪の積もり方や脆さの違いを知ることができる。自然とはなんて複雑で素晴らしいのだろう。

つぎは私のわがままな希望でK玉チーフリーダー、S山リーダーからのほとんど個人講習状態

の雪山マルチピッチシステムのガイドランス。教わったことは忘れずに、「早く正確に」出来るように頑張ります。

帰りは「そっちのほうはK島さんのトイレのほうに行っちゃおうよ！」なんて軽口でみんなで大笑いしながら、てくてくと下山する。仲間と一緒に充実した2日間だった。

#### M中克哉

車内から雪洞に至るまで笑いが絶えず、大変たのしい週末でした。また、いままで知らなかった技術（スタンディング・アックス・ビレイ、土嚢懸垂など）を学ぶことができ大変有意義な訓練でした。しかし、同世代の仲間とたくさん出会うことが出来たのが最大の収穫かもしれません。これからもよろしくお願いします！

#### F神浩晃

5時起床なのに、K島さんに「もう6時過ぎてるよ！」と起こされた。寝坊のせいで朝の気象状況の講習にまともに参加出来ず。すみませんでした。雪洞は広く掘らないときゅうくつだし寒いので、乗り気でなかったが、6人用の広々とした雪洞が出来上がりとても快適だったので、今回位広いならまた泊ってもいいなと思えた。相変わらずアナログビーコンには苦勞させられたが、盛り沢山の訓練が出来て良かった。

#### S木K生

